

---

## 第44期 連結計算書類

---

自：平成24年4月1日  
至：平成25年3月31日

ミサワホーム西関東株式会社

# 連結貸借対照表

平成 25 年 3 月 31 日現在 (単位:百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
<b>流動資産</b>	<b>7,599</b>	<b>流動負債</b>	<b>7,236</b>
現金及び預金	484	買掛金	1,654
預け金	3,000	工事未払金	742
完成工事未収入金	21	短期借入金	1,650
未成工事支出金	897	未払金	478
分譲在庫	2,741	未払法人税等	35
貯蔵品	6	未払消費税等	62
前渡金	36	未払費用	140
前払費用	45	未成工事受入金	1,868
繰延税金資産	272	前受金	26
短期貸付金	1	預り金	246
未収入金	88	前受収益	3
立替金	5	賞与引当金	243
貸倒引当金	3	完成工事補償引当金	81
		資産除去債務	2
<b>固定資産</b>	<b>2,816</b>	<b>固定負債</b>	<b>1,286</b>
(1) 有形固定資産	2,233	長期借入金	579
建物	831	長期未払金	137
展示用建物	579	長期預り金	3
建物付属設備	444	受入保証金	113
構築物	73	役員退職慰労引当金	59
機械装置	2	退職給付引当金	332
工具器具備品	134	資産除去債務	60
土地	1,148		
建設仮勘定	80	<b>負債合計</b>	<b>8,522</b>
減価償却累計額	1,060		
(2) 無形固定資産	8	<b>純資産の部</b>	
電話加入権	7	<b>株主資本</b>	<b>1,893</b>
ソフトウェア	0	(1) 資本金	100
(3) 投資その他の資産	574	(2) 資本剰余金	788
投資有価証券	1	(3) 利益剰余金	1,004
出資	1	<b>評価・換算差額等</b>	<b>0</b>
長期貸付金	50	その他有価証券評価差額金	0
長期前払費用	29		
繰延税金資産	66	<b>純資産合計</b>	<b>1,893</b>
会員権	4		
差入保証金	428	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>10,415</b>
貸倒引当金	8		
<b>資産合計</b>	<b>10,415</b>		

# 連結損益計算書

自:平成 24 年 4 月 1 日  
至:平成 25 年 3 月 31 日  
(単位:百万円)

	金 額	
売上高		
完成工事高	19,550	
分譲売上高	2,111	
その他の売上高	842	22,504
売上原価		
完成工事原価	16,072	
分譲売上原価	1,963	
その他の売上原価	534	18,570
売上総利益		3,933
販売費及び一般管理費		3,624
営業利益		309
営業外収益		
受取利息・配当金	13	
受取地代家賃	10	
受取手数料	5	
受取保証料	5	
雑益	25	60
営業外費用		
支払利息	42	
退職給付費用	23	65
経常利益		304
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別損失		
固定資産除却損	1	
その他の	0	1
税引前当期純利益		302
法人税・住民税及び事業税		34
法人税等調整額		115
当期純利益		384

連結株主資本等変動計算書

自：平成 24 年 4 月 1 日

至：平成 25 年 3 月 31 日

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	合計	その他有価証券 評価差額金	合計	
当期首残高	100	788	620	1,508	0	0	1,509
当期変動額	当期純利益		384	384			384
	株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				0	0	0
	合計	-	-	384	384	0	0
当期末残高	100	788	1,004	1,893	0	0	1,893

# 連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項)

## I. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社 …………… ミサワ西関東建設(株)

## II. 会計処理基準に関する事項

### 1. 重要な資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券

その他有価証券 時価のあるもの……………決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの……………移動平均法による原価法によっております。

#### (2) たな卸資産

未成工事支出金……………個別法による原価法によっております。

分譲在庫……………個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

### 2. 重要な固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産……………定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産……………定額法によっております。自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

### 3. 重要な引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金……………債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金……………従業員に対する賞与支給に備えるため、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

(3) 完成工事補償引当金……………完成工事に対する瑕疵担保の費用に備えるため、過年度の保証工事費の完成工事高に対する実績率による額、及び保証工事の発生が見込まれる特定物件について発生見込額を計上しております。

## 連結注記表

- (4) 役員退職慰労引当金…役員退職慰労金および執行役員退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づき期末要支給額を計上しております。
- (5) 退職給付引当金……従業員への退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。  
会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用処理しております。過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(8年)による按分額を費用処理しております。  
数理計算上の差異については、各営業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(8年)による按分額を、それぞれ発生翌営業年度から費用処理しております。

### 4. その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

#### (1) リース取引の処理方法

##### ファイナンス・リース取引(借手側)

リース資産の内容

主に「LAN環境構築設備」「電話設備」であります。

減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により計算しております。

#### (2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

#### (会計方針の変更)

##### 減価償却方法の変更

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

#### (追加情報)

##### (1) 有形固定資産の耐用年数の変更

当社が保有する展示用建物は、従来、耐用年数を4年として減価償却を行ってまいりましたが、当事業年度において、保有形態及び使用状況を見直し、過去の使用実績に基づく平均使用期間を算定した結果、展示用建物の利用がより長期化する傾向にあり、従来採用していた耐用年数と乖離があるため耐用年数を7年に見直し、将来にわたり変更しております。

この変更により、従来の方法に比較して、減価償却費が50百万円減少し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益が同額増加しております。

# 連結注記表

## (2) 連結納税制度の適用

当社は、平成25年4月1日に開始する事業年度より、ミサワホーム株式会社を親会社とする連結納税制度の適用を受けることについてみなし承認を受けましたので、当事業年度より、「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱(その1)」(企業会計基準委員会実務対応報告第5号平成23年3月18日)及び「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱(その2)」(企業会計基準委員会実務対応報告第7号平成22年6月30日)に基づき、連結納税制度の適用を前提とした会計処理を行っております。

## (連結貸借対照表に関する注記)

### 1. 担保資産

#### (1) 担保に供している資産

建物	507	百万円
土地	1,148	百万円
計	1,656	百万円

#### (2) 担保に係る債務

短期借入金	568	百万円
-------	-----	-----

### 2. 保証債務

住宅資金つなぎ融資及び住宅ローン融資利用者のために金融機関に対し、保証を行っております。

住宅資金つなぎ融資に対する保証	407	百万円
住宅ローン融資に対する保証	2,631	百万円
計	3,038	百万円

## (連結株主資本等変動計算書に関する注記)

### 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位:株)

株式の種類	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	490,900	—	—	490,900

# 連結注記表

## (リースにより使用する固定資産に関する注記)

リース契約により使用している固定資産の主なものは「LAN環境構築設備」「電話設備」であります。  
なお、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引は、以下のとおりであります。

### 1.リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

	(単位:百万円)	
	工具器具備品	期末残高相当額
取得価額相当額	22	22
減価償却累計額相当額	20	20
期末残高相当額	1	1

### 2.未経過リース物件期末残高相当額

	(単位:百万円)	
	一年以内	期末残高相当額
未経過リース物件期末残高相当額	1	1

### 3.当期支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

支払リース料	3百万円
減価償却費相当額	3百万円
支払利息相当額	0百万円

### 4.減価償却費相当額の算定方法

残存価額を零とする定額法によっております。

### 5.利息相当額の算定方法

リース料総額とリース資産の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法は利息法によっております。

## (一株当たり情報に関する注記)

一株当たり純資産額	3,857円25銭
一株当たり当期純利益額	782円61銭

---

## 連結注記表

---

### (その他の注記)

#### 資産除去債務に関する注記

当社は、モデル住宅展示棟及び賃貸用店舗について、モデル住宅運営会社及び建物所有者との間で出展契約及び不動産賃貸借契約を締結しており、契約期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約及び法令上の義務に関して資産除去債務を計上しております。

資産除去債務の見積りにあたり、使用見込期間は7年から33年、割引率は0.404%から2.327%を採用しております。

当会計年度における資産除去債務の残高の推移は以下のとおりであります。

期首残高	63 百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	5 百万円
時の経過による調整額	0 百万円
資産除去債務の履行による減少額	5 百万円
期末残高	63 百万円

記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。